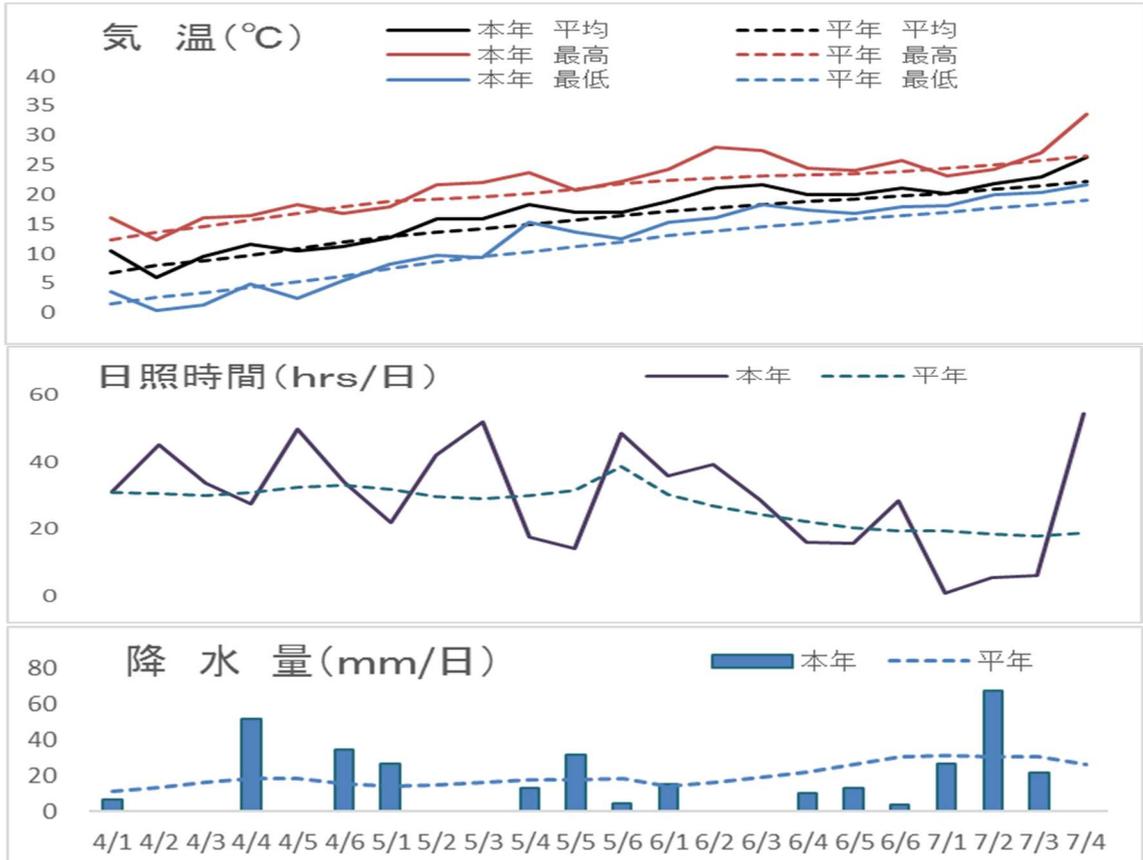


～平年より早く「ひとめぼれ」等の中生品種は減数分裂期から出穂期に～

1 令和3年の気象(古川アメダス)



◆東北地方の1か月予報(7月24日～8月23日までの天候見通し)

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 70%，平年並みの確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 40%，少ない確率 20%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉

【気温】東北地方	10	20	70
【降水量】東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】東北太平洋側	40	30	30

〈気温経過の各階級の確率(%)〉

1週目 東北地方	10	30	60
2週目 東北地方	10	30	60
3～4週目 東北地方	20	40	40

2 生育状況（7月20日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査〕

(1) 宮城県古川農業試験場調査〔作況試験 ひとめぼれ〕

- ・草丈は80.7cmで平年比117%，茎数はm²当たり583本で平年比105%である。
- ・葉数は、11.8枚で平年より0.6枚多く、生育ステージは概ね平年並み～やや進んでいると推測される。
- ・葉色（GM値）は35.7で、平年より若干低下している。
- ・幼穂長は77mmに達しており、平年より伸長が進んでいる。

7月20日 県古川農業試験場調査〔作況試験:ひとめぼれ〕

移植日	草 丈		茎 数		葉 数		葉 色		幼 穂 長	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (枚)	平年比 (枚)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (mm)	平年差 (mm)
5月10日	80.7	117	583	105	11.8	0.6	35.7	▲1.4	77	47.0

(2) 地帯区分別【7月21日 宮城県記者発表資料及び病害虫防除所「注意報第2号」より】

- ・草丈は、全域で平年より上回っている。茎数は、平年並み～下回っている。葉色は、平年並み～若干下回っている。
- ・**県北部平坦地帯では、7月15日頃に減数分裂期に入ったと思われ、出穂期は平年（8月3日頃）より早まる見込みである。中生品種の出穂期は7月30日頃と予測されている。**

県農業改良普及センター調査〔生育調査ほ ひとめぼれ・ササニシキ〕

地帯区分別	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
北部平坦	76.0	108	508	93	36.2	0.7
南部平坦	79.6	106	493	100	33.5	▲0.1
仙台湾沿岸	74.5	108	465	93	35.8	▲1.6
西部丘陵	74.4	106	492	94	37.4	▲1.8
三陸沿岸	67.4	105	484	90	32.8	▲0.1

3 今後の管理

(1) 出穂後の水管理

- ・今後も高温傾向が続くと見込まれ、出穂期は早まると予想される。特に登熟初期の高温により白未熟粒等が発生すると玄米の品質低下につながるため、以下に示すような水管理によって、**可能な限り根の活力維持や子実への転流促進を図る。**

① 保水管理

湛水することなく、走水等により土壌を湿潤状態に保つ「保水管理」を行うことで、掛流し（通水）ほどの効果は得られないが、湛水状態よりは乳白粒・胴割粒の発生が軽減できる。

② 昼間深水・夜間落水管理

晴天の高温時には昼間に深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする方法である。日が差して地温が上がる午前9時～10時頃に灌水し、気温が水温より低下し始める午後4時頃に落水する。

③ 掛流し灌漑

高温時における最も有効な水管理である。気温より温度の低い用水を掛け流すことで、地温の上昇を抑えることができる。ただし、十分に用水を確保できる場合に限られる。

(2) 病虫害防除

① いもち病

- ・ 7月16日の「梅雨明け」以降、下記のように「葉いもち」の感染好適条件（●が感染好適条件）は出現していない（県病虫害防除所HPより）。
- ・ **病虫害防除所が実施した7月15日から21日の巡回調査によれば、葉いもちの発生地点率は平年（4.0%）より高い30.4%であったことから、いもち病に関する「注意報第2号」を発表した。**
- ・ 穂いもちの予防防除を実施していない水田や葉色が極端に濃い水田は発生に注意し、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤等で防除する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/11	○	—	●	●	●	●	—	—	●	—	●	—	—	—	—	—	—	●	—	●
7/12	○	—	●	●	●	—	●	—	●	●	●	●	●	●	●	●	—	—	●	—
7/13	○	—	—	●	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
7/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 紋枯病

- ・ **病虫害防除所が実施した7月上旬の巡回調査では、発生株率が0.4%（平年値0.1%）で平年よりやや高く、発生地点率も10.7%（平年値2.6%）と平年より高かった。**
- ・ 高温多湿条件で発生が助長される。水田を見回り、穂ばらみ期の発病株率で10～18%（ひとめぼれ）程度が要防除の判断基準となる【宮城県 普及に移す技術 第90号より】。

表1 防除要否の判断基準（被害確率50%で設定）

被害許容水準	穂ばらみ期発病株率		
	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ
収量5%以上減収	18%	10%	29%
収量3%以上減収	12%	9%	18%
収量1%以上減収	10%	3%	14%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%	51%
白未熟粒1%以上増加	11%	-	12%

③ 斑点米カメムシ対策

- ・高温の影響で、出穂期が早まると予想される。早生品種で田植が早かった場合は、すでに出穂期に達している水田もあると思われるので、早めに防除計画を立て、実施する。
- ・本県における斑点米の原因となるカメムシ類で、最も優先して発生するのは「アカスジカスミカメ」である（写真参照）。本種の**防除適期は、**水稻の**穂揃期(1回目)**とその**7~10日後(2回目)**が基本である。**しかし、水田内で「イヌホタルイ」が多発しているほ場では、1回目の散布時期を「出穂始め~穂揃期」に早めることで、高い防除効果を得られる【下図参照 宮城県 普及に移す技術 第83号より】。ただし、「穂揃期後7~10日後」に行う2回目の薬剤散布を省略しないことが重要である。**

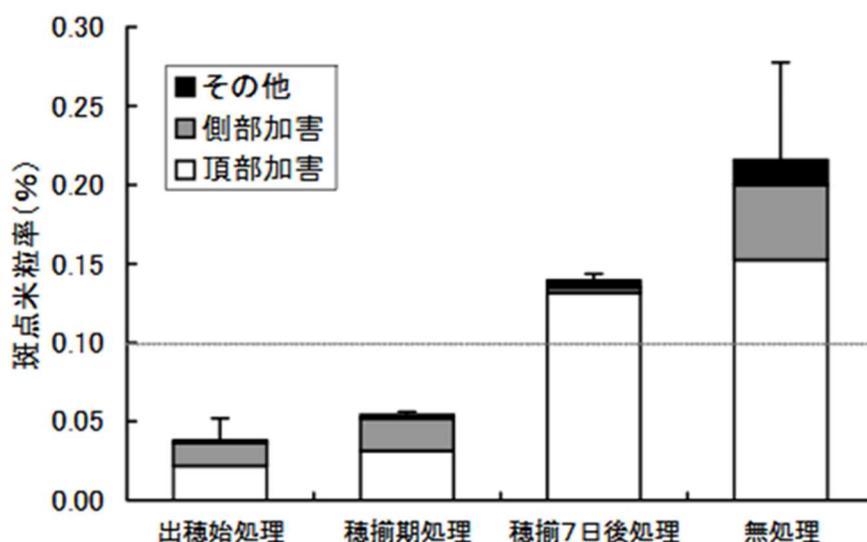


図1 イヌホタルイ発生水田における防除時期と斑点米粒率の関係(平成19年)

注1) 精玄米(1.8mm以上)における斑点米粒率(2反復の平均)

注2) 図中のバーは斑点米粒率合計値の標準誤差を示す。

④ イネツトムシ (イチモンジセセリ)

幼虫期に葉を食害する。直播栽培においては、時に多発して大きな被害をもたらすことがある。防除適期は、第2世代の若齢幼虫が発生盛期を迎える7月下旬から8月上旬とされている。水田を見回り、発生が多い場合には防除を実施する。

4 緊急情報 台風8号の接近に伴う技術対策【宮城県農業振興課 HP より抜粋】

- ・台風8号は、7月26日午前3時には日本の東にあって、1時間におよそ20キロの速さで北北西へ進んでいる。台風は今後、日本の東を北西へ進み、27日には東北地方から東日本に接近し、上陸するおそれがある。宮城県では台風8号の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となるところがある見込みである。（2021年7月26日6時7分 仙台管区气象台発表）。

◆技術対策(水稲関係)

- ・台風通過後の高温乾燥（吹き返し）により、出穂直後の稲では葉先枯れ、籾の褐変、白穂などの生理障害が発生しやすいので、早生品種の水田などでは十分にかん水するとともに、台風通過後はゆっくり落水し、生理障害の軽減を図る。
- ・減数分裂期～出穂期の冠水では不稔籾が増加するため、台風通過後は必ず見回り、冠水した水田では速やかに排水を実施する。

※人命第一の観点から、水田の見回り等については気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まるまでは絶対に行わないこと！